

～チャレンジ事業審査委員会委員からの講評コメント～

団体名：大井里山保全協議会

■竹林の管理という地域の深刻な課題を地域資源として捉え直すという発想の転換で取り組まれている事業だと思います。地域の関係人口の協力を得て、様々な視点で資源としての竹の可能性を追求しており、それらを技術開発や市場ルート開発、脱炭素社会の実現といったことにまで広げていることが素晴らしいと思います。

■大学と連携し、しっかりとした開発テストを重ねて竹炭の商品開発を進めていること、また、付加価値や事業の持続性も考慮しているところに関心いたしました。その結果として農作物の収穫量や病害虫の発生状況にどう影響したのかわかりやすく提示できると、商品化した時のPRにつながると考えます。また、商品化の際には入手方法などが容易にわかるようにしていただきたいと思います。

■コロナ禍の中で、竹材処理として取り組まれた竹炭試験炉の試行錯誤の積み重ねが無煙炭化器での新たな成果を生み、バイオ炭として対処できるという展望ができたことは素晴らしい。(質問) 無煙炭器による残渣の処理には問題・課題はないのでしょうか。

■無煙炭器開発お疲れさまでした。今後それを使って地域に展開を期待しています。開発事業が大井地区の産豪化へとつなぐ若い力の受け入れを期待します。より多くの人の参加の場の竹灯りづくりなどを通して柔軟な協働を期待します。

■竹の繁茂で荒れた土地の解消を目的にした事業で、竹を利用し少しでも稼ぐことを前提としていたため、企業等による竹炭や粉の利用が無くなったことはことは残念でありませんが、既に竹もみ灰利用にシフトしているようです。来年度がチャレンジ事業の最終年となりますが、竹利用による製品開発や観光商品開発を期待しております。